



会長 古田 和彦
副会長 金子 功
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 金子 功

国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 奥菌 一紀

<今月の聖句>

松島 美一

だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは神と富とに仕えることはできない。

(マタイによる福音書6章24節)

今月のひとこと



古田 和彦

クラブ会長2年目に当り、「YMCA、地域、ワイズメンとともに」とクラブ主題を掲げ、はや、11か月が過ぎました。今月の強調テーマは「評価」となっています。正式には7月の総会にこの一年を総括して評価しなければなりません、とりあえず、自分なり

の評価を出しておきたいと思います。

一言で言いますと、前半はほぼ計画通りに諸活動を続けることができましたが、後半、特に3月以降は、どのクラブもそうであったように、新型コロナウイルス感染症の影響で諸計画を中止にせざるを得なかった結果となりました。誠に残念でした。

具体的には、YMCA理解の推進と協力支援ですが、外国人留学生による日本語スピーチコンテストやワイズカップチャリティーサッカー大会の支援、横浜中央YMCAウエルカ

ムフェスタでのバザー活動とジャガイモの提供、チャリティーランの支援と運営協力、横浜YMCAクリスマス・会員大会への参加と、例年通りの活動を実施しました。特に、ウエルカムフェスタでは、前日の値付け作業からメネット・コメントも多数参加して交わりを深めることができました。また、例会卓話に長年YMCA理事としてご奉仕くださった茂木雄さんをお迎えし、「横浜YMCAの国際交流の経験に想う」と題してYMCA国際交流の神髄を受け止めさせていただき、一方、若いユースリーダーからは、ワイズ東日本区が支援しているユースボランティアリーダーズフォーラムの参加報告を受けました。

地域社会への奉仕活動では、地域の社会福祉施設である水上学園・横浜訓盲院への十勝ジャガイモ寄贈のほか、社会福祉法人聖坂学園から高山健氏をお招きし、活動報告を伺いました。

また、会員相互の交わりでは、8月の納涼例会を従来は当クラブの行事に他クラブの皆さんに参加していただいていたが、今年度は鎌倉・横浜とつかクラブとの合同例会とし、その他のクラブからも大勢の参加者を得て、楽しく交わりを深めることができたほか、横浜つづきクラブのYou & Iコンサートへの参加、厚木クラブバス旅行参加など他クラブとの交流を深めることも進んだと思います。

一方、会員増強の推進ですが、残念ながら成果なく終えざるを得ませんでした。会員増強のためには、例会卓話を充実させ、そこに新しい人を引き、賛同して入会いただくという筋道が正しいと思います。その意味で、3月以降に予定していた大江ワイズによる「中村哲一『天、共に在り』草の根の人々と生きて」や、私たちが支援している日本語教育に関する例会での卓話を、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため中止のやむなきに至ったことは残念なことでした。

<2020年5月例会実績 中止>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メソ 0名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 0名	0% (メーキャップ 名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<6月の行事予定>

評価

日	曜	時間	行事内容	場所
02			第88回Y-Ys評議会	中止
19	金	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom会議
20	土	15:00	第4回部評議会	持ち回り
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom会議

もう一つの大きな課題が、本年12月に迎える当クラブ創立90周年記念行事への備えです。毎月の第2例会で準備すべき事柄を順次取り上げて進めてきました。本年12月12日(土)と日程を定め、会場も抑え、礼拝・記念例会・懇親会と予定しましたが、新型コロナの影響で計画を見直さなければならなくなっています。

以上のように足りないところの多かった1年であったと振り返ります。次期の古賀会長は実行力があり、情熱溢れる方です。皆様のご協力・ご助力を切にお願いいたします。

「近況報告」

押川 幸男



横浜ワイズの皆さま、お久しぶりです。コロナウイルス感染予防のため、4月・5月は認定こども園恵泉幼稚園は臨時休園・登園自粛となり、沼田教会もイースター礼拝と教会総会には執行することができましたが、その後、家庭礼拝となりました。

幼稚園は今月(6月)から再開しましたが、教会は高齢者が多く慎重に判断して、7月から教会での礼拝を開始予定です。

私は人生で初めての単身赴任中で、3年目を迎えました。月に2回ほど東京に寄りますが、こんなに度々新幹線に乗るのも有意義な体験だな、と思っています。

横浜ワイズ例会にご無沙汰しておりますが、毎年、納涼例会と新年例会には出席するつもりでいますが、次年度は無理かもしれません。

さて、幼稚園の状況もようやく軌道に乗ったので、そろそろ東京に戻る準備を今年度始めようと考えていた矢先に、このコロナ問題で少し延期の状況になりました。

その一方で、この度の外出自粛要請により、幼稚園休園と教会の家庭礼拝によって多くの時間が転がり込んできました。これは短いサバティカルイヤーのようなものだと思っています。

す。新年度始まりは、どんな仕事でも忙しい時期でもありますが、ゆっくりとした時間をいただいたおかげで、贅沢な読書の時間をいただき、家の掃除や整理整頓もできました。

運動不足やコロナ太り予防のため、隣の沼田公園を散歩したりして毎日の散歩も習慣化できました。このような貴重な時間も神さまからのプレゼントだと思われています。

さらに、東京と沼田すなわち都会と地方を行ったり来たりしているこの生活も、案外楽しいものだなあ、と最近思われています。

三密の象徴である都会と三密から解放された地方、二つの場所を行き来しつつ、神さまから私に与えられている使命を改めて考えながら、今年の歩みを始めている今日この頃です。

「禍転じて福と為そう」(1 of 2)

大高 治



「いま私たちは人類史上、前例のない状況にあります。COVID-19(新型コロナウイルス)の感染拡大により、大切な家族の健康、日々の生活に欠かせない産業、世界的な経済の流れ、そして日常のライフスタイルに甚大な影響が広がっています。こうした前代未聞の、刻々と変化し続ける難題にすべて人々が立ち向かわねばならぬこのときに、どうか覚えておいてください。ペイパルは、いつも皆さんと共にあります。」これはペイパル社の社長がステークホルダーに宛てたメッセージの冒頭です。

多くの方々が新型コロナウイルスのパンデミックに、同じような思いを抱いているのではないのでしょうか。人類はその長い歴史を疫病と戦いながら生きて来ました。その間多くの人命が失われ、私たちはそこから生き残った人の子孫なのです。

疫病の伝染性はイスラムの医学者によって1020年に発見されました。またペストは微生物が人の体内に侵入することによって発症するとの仮説が14世紀に立てられ、その病原体を人類が初めて目にしたのは、1684年オランダでの光学顕微鏡によります。人類は長い間、訳の分からない状況の中で、まともな治療方法もないまま加持祈祷に頼り、薬草を煎じて命を落として来たのです。

蒙古ではペストが国土を伝搬して欧州に到達するまでにその人口の半分を、欧州では1/3の人口を失うという大きな悲劇に遭遇しました。またインカ帝国はスペイン人との戦闘によるよりも、欧州から運ばれた諸々の疫病によって滅亡したと言われ、北米大陸のインディアンの衰退もまた、金の発見の都度未開の地に追いやられ迫害されたことよりも、疫病に対して免疫力がなかったことによると言われています。

日本ではどうでしょう。100年前のスペイン風邪以外は、島国であったことが幸いして大陸各地の悲劇よりは小さかったが、有史以前から天変地異と共に疫病に悩まされて来ました。607年の法隆寺、737年の東大寺大仏殿の建立は天皇の病の平癒や飢饉、悪病の鎮静を念じるものでした。

また古来の神事では花びらと共に疫病が飛び散るのを鎮めるため、鎮花祭(はなしずめのまつり)を国家の祭祀とすることが701年大宝律令に定められました。この鎮花祭は奈良

県の大社神社を筆頭に、今日でも全国の多くの神社で執り行われています。横浜の総鎮守、伊勢山皇大神宮ではコロナウイルスの流行鎮静祈願祭が4月1日の月次祭（つきなみのまつり）で行われ、以後、毎朝、神職によって執り行われています。

皇室も沈静の祈りを捧げて下さっていることでしょう。

ローマ法王は3月22日のミサで、25日に全世界でコロナ沈静化祈願のミサを執り行うように促しました。国により宗教、宗派により形式の違いがあっても同じ想いの祈願が行われているものと思います。

5月末現在、世界中で600万人が感染し、37万人が死亡しました。日本では16,663人が感染、897人が命を奪われました。昨年の11月17日中国の武漢で発見されたこの疫病は、わずか5カ月で全世界を覆い、人の移動を止め、経済活動に大きなブレーキをかけています。

感染が先行した中国や韓国では沈静化に向かう一方、世界の感染者並びに死者はまだ増加しています。我々の願いも虚しくこの勢いは何時止まるのであろうか。

歴史上最大の犠牲は1918年から1920年にかけてのスペイン風邪です。全世界で5千万人、アメリカで50万人が死亡し、日本では当時の人口5,800万人中2,300万人が感染して38万人が命を落としました。アメリカのカンザス州で発生したこの感染症は第一次世界大戦に出兵したアメリカ兵により欧州に伝搬し、日本ではシンガポールに寄港した軍医船に感染者が出て広がり、第3波までありました。

中世での感染は覇権主義と植民地化、近代では戦争によって、現在は経済、文化及び観光の国際化による拡散です。

（紙面の制約上、後半部分は7月号に掲載予定です）

「祈りの尊さ」

古賀 健一郎



今年に入って、「祈りの尊さ」をあらためて実感している。ここ数年間の認知症の母との交流は、充分に会話が進んだというよりは、「魂の会話」でのふれあいでした。そんな母でしたが前向きに生きる彼女の姿は、最後まで命の輝きを私に見せてくれた。

危篤状態になって、教会の荒井牧師が駆けつけて下さった。先生のお祈りが終わった時、それまで全く目を開けることがなかった母が、突然しっかり目を開けて、先生の方に視線を移した。そばにいたノンクリスチャンの弟が、「これは奇跡だ！」と言った。牧師と共に、姉・弟・私の、それぞれの家族全員で合わせた「祈り」は、母にしっかりと伝わったと感じた。翌朝、母は大変穏やかで安らかな表情で、静かに息をひきとった。94歳、老衰だった。

母の死後、世の中では新型コロナウイルスが蔓延し、世界中の人々の不安がより深まり、感染の拡大によって様々な自粛が求められている。感染して体調を崩し、重症になって生死の境を行き来する人、そして、あまりにもつらい別れの中で、命を落とされる方々と遺族の方々と悲しみのニュースが日々伝えられるたびに、亡き母のことを想い浮かべ、お一人おひとりの命の尊さを想いひどく心が痛んでいる。

このような目に見えないウイルスに翻弄されている日々の中、音楽ファンの私は、「音楽」により心が癒され勇気づけられている。4月、医療崩壊ギリギリの状態で持ちこたえていたイタリアのクレモナの街。1ヶ月間ずっと救急車のサイレン以外に静寂しかないクレモナの中心街に、バイオリンの音が響いた。病院の屋上から届けられた音は、クレモナ在住のバイオリニスト、横山令奈さんによるバイオリン演奏であった。その映像は、医療従事者を含めた世界中の人々の胸を熱くし、大きな感動的な話題となった。そこには、深い祈りの気持ちがこめられていた。医療従事者の健康が守られて、危機の中でも無事に務めを果たせるようにと、世界の全ての人に癒しの恵みがあたえられるようにとの祈りが表現された。

横山さんは言われる。「演奏曲の一つ、ヴィヴァルディ作曲四季の中『夏』の第3楽章を選んだのは、この曲に添えられたソネット（定型詩）に描写されている『嵐』が、まるでいま私たちの置かれている状況を象徴しているような気がしたからです。」そして彼女は続けて言われる。「でも同時に、その激しくエネルギー的な曲調に、私はこの嵐を乗り越えるための勇気を奮い立たせてくれる力強さを感じる。その想いが、聴いて下さっていた方々にも伝わっていたなら、大変嬉しいです」……と。

祈りと共に、「今、私が行動できることは何だろうか？」と考えていた。そんな時ワイズの中で「つながりマスク」の呼びかけがあった。湘南・沖縄部でも有志が立ち上がった。そこで早速、私も妻（メネット）と一緒に参加した。

この危機において、最も弱い立場に置かれた人々への、祈りと命を守る行動につながるワイズの奉仕精神を心に留め、ワイズ・YMCA・地域の方々と連帯し合って、この困難な嵐を乗り越えていきたいと、力強い音楽の祈りの響きは私を鼓舞してくれている。

「自己紹介」

奥菌 一紀

4月より厚木YMCAより中央YMCAへ異動となり、ワイズを担当させていただきます奥菌一紀（おくぞのかずとし）でございます。厚木YMCA在籍中も厚木ワイズのみなさまとともに子ども食堂や地域清掃などの地域活動に取り組みました。

私自身は、1990年度途中で中途採用として職員となり、それからおよそ30年間YMCAでの働きを続けております。採用時から、現在まで専門学校事業だけを担当しており、他事業での経験がありませんので、ワイズのみなさまからのご質問に返答できないなどご不便をおかけしてしまうかもしれませんが、ご容赦くださればと思っております。

入職時は中央YMCAに配属となり、現在の会長でいらっしゃる古田和彦さんのもと勤めを始め、その時から古田さんにはお世話になっております。

当時はバブル期にあり、また18歳人口の減少傾向も少なく、専門学校生が溢れていました。入職後数年経ちますと、18歳人口の減少とともに、ビジネス系専門学校のニーズが薄れ始めました。

そうした時期に情報システム室から保坂弘志さんが中央専門学校の責任者となり配属され、保坂さんよりさまざまな事

務処理に必要となるパソコンスキルなどを学ばせていただきました。

事務処理の能力が少しずつ上がり始めました時に、厚木YMC Aの情報処理の専任教員が定年退職となり、厚木へ配属となり2〜3年間パソコンの授業を担当させていただきました。

厚木YMC Aでは、福祉人材、スポーツインストラクターなどの人材養成が中心でしたが、とにかく学校行事が多く、生まれて初めての経験ばかりでありました。

生まれて初めての野外キャンプ、スキー実習などアクティブな学校行事が多く、驚きの連続でありました。虫も苦手ですし、スキーの経験ありませんでした…

当時の学校責任者の小林一郎さんより、キャンプやグループワークの大切さなどいろいろとお教えいただきました。こうした先輩方の関わりや教えによって今の自分があると実感しております。

どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

第二例会報告

金子 功

日時：5月28日(木) 17:00~18:00

場所：Zoom方式に依るWeb会議

出席者：伊藤、大高、金子、古賀、古田

初めての試みとしてZoom方式による会議が採用された。伊藤ワイズの音声の不調であった他は映像、音声共々良好で、Zoom会議の有効性を確認する会議であった。

行事予定

- ・予定が明示され、中止となる行事を確認した。

協議・報告事項

- 6月の第1例会開催は、5月第2例会のZoom会議成功の実績を踏まえZoom会議とすることとし、その準備を古賀ワイズに依頼した。
- 総会資料作成については、古田会長の提案通りとし、各担当者は6月18日迄に原稿を伊藤ワイズに提出こととした。
- 次年度クラブ役員については、書記を担当する金子ワイズの体調不良の問題があるが、取り敢えず2月に決定したとおりの陣容とし、書記の業務は他の役員が補完することとした。なお、国際・交流事業委員は大江ワイズが6月末付で退会予定のため古田ワイズとする。
- 会計の支出について、行事の中止等に伴う大きな変更点を確認した。
- 6月、7月のクラブブリテン編集計画(伊藤ワイズ提案)を確認した。
- 横浜クラブ90周年記念行事の実施について、第2例会で項目毎に問題点を詰めることを確認した。
 - ① 現在予約中の崎陽軒(12月12日)のキャンセルは10月11日までであれば無料。
 - ② 記念誌の編集委員長は松島ワイズにお願いするとして、実務は伊藤ワイズが行うことを確認。→その後、松島ワイズが編集委員長の任を受諾された。
 - ③ 記念誌の編集計画については伊藤ワイズの提案に基づいて行うことで合意した。



担当主事 奥菌 一紀

中国・武漢で発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、世界中に広がり、世界同時パンデミックとなりました。このような未曾有の状況にあっても、医療関係者のみならず、横浜YMC Aにおいても、保育園や学童保育、高齢者事業の職員は社会を支える役割を担ってくださっています。

全国のYMC Aでは、「#はなれていてもつながっている」キャンペーンを始めています。横浜YMC Aにおいても、自宅で過ごす子どもたちや家族、そして会員の心と身体と精神の健康のために、運動や語学などの動画の配信を継続しています。

留学生を含む横浜YMC Aの専門学校では、ウェブ授業が始まり、学生も教職員も不慣れではあるものの学びの継続に取り組んでいます。

留学生に限りませんが、アルバイトによる収入がなくなるなど経済的に厳しい環境におかれる学生も見受けられるため、横浜YMC Aカレッジ・グループ4校では、それぞれの卒業生が組織する校友会からご協力をいただき、「緊急支援給付金」を支給しました。また、留学生にはAmazonよりタブレット、コストコホールセールジャパンよりお米の寄贈がありました。

周りの状況が目まぐるしく変化する中で、自分たちだけを考え優先するのではなく、弱く小さくされているものに気づき、生活の様子や取り巻く困難などを聴きとることを大切にされている上記企業様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

緊急事態宣言も解除されましたが、私たちは新しい生活様式を身に着け、習慣化する必要があります。社会状況に合わせて、私たちも変わり続けることが必要であることを感じます。距離を取らざるを得ない状況であっても、つながる大切を忘れないようにしたいと思います。

6月例会プログラム

6月度の第一例会は、新型コロナウイルス感染症予防への配慮からZoom会議とすることにいたしました。

7月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
09	木	18:30	横浜クラブ第一例会・総会	中央Y
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
25	土	15:00	第一回部評議会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMC A奥菌一紀にご連絡下さい。

メール okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080